

「チャレンジを納税者にできる日本へ」

プロップステーション理事長 ナミねえ、こと竹中ナミさん (2002.5.22)

ご紹介：ナミねえには、様々なキャッチフレーズがあります。中卒、バツイチ、元不良。そして、重度の障害を持った娘さんをもつお母さん……。Prop というのは、ラグビーのポジションで、つかえ棒、とか、支え合いを意味しているのだそうです。



.*:*.:*.*

トークから：

プロップステーションは、ITを活用して、家族の介護を受けていらっしゃる、施設にいらっしゃる、あるいは筋ジストロフィーのような進行性の障害で病院にいらっしゃる、そういう状態の方も社会に参加して、社会参画をして、なおかつ働いて、納税者になろうと、いう過激な活動をやっている団体です。今まで保護や救済といった福祉のイメージの対象に思われていた人達を社会を支える誇りある国民の一人にしよう。あるいはそうなれる人達である。そんな日本を実現したいということで、1991年の5月に草の根のボランティアのグループとして生まれました。

私、娘と息子おりましたね。息子はもう既に33歳。下の娘、長女を30年前に重症心身障害児で授かったわけです。色んな障害がどれも重くて、目で言うと、ものの形は見えないけど、影だけがぼんやりと見える。音は聞こえているんですけど、その音が何を意味しているかは一切判断できません。声は出るんですが、赤ちゃんが「うー」とか「あー」とか産まれてすぐ、言いますよね。「まんまんま」とかよりは、ちょっと手前の、最初に気持ちのよい時は心地よい声を出し、機嫌の悪い時は心地悪い声を出すというような、そのまんまの状態。体も生まれたときはこんにやくみたいに頭とお尻がくつつくぐらいにぐにやぐにやだったんですね。精神の障害もとっても重くて、皮膚の接触の障害。かあちゃんもゴミと一緒になんです。抱っこされたりするのが嫌、色んなものに触れるのが嫌。だから、自力でおっぱいとかも吸ってくれない。自分でおっぱいを絞って、それをほ乳ビンに入れて、湯煎して、スポイトで口に入れてやるみたいなことも最初はしていました。

そこへもってきて、私の父親、娘のおじいちゃんが、「お前が絶対に不幸になる。だから、今の内からこの孫を連れて死ぬ。」と、本気でいうとるんです。ゆきさんもおっしゃったように、私、すっげえ不良でした。高校入学はしたんですけども、すぐに同棲しまして、ばれまして、不純異性交友ということで、退学になりました。結婚したんですが、付き合ってる段階だったんで、退学だけじゃなくて、学籍抹消と。学校嫌い、勉強嫌いで、趣味は家出と木登り。どうせ道外れてるんだから、この状況を幸せにすることだって絶対できるはずや。そんな迂闊な事考えてくれるなと父に言いました。



けど、どう楽しく育てたらいいか。はっと気がついた方法は、彼女が見えないんやったら、見えない人とつきあったらいい。見えなくてもこういう風に生活しているとか、こんなことができるとか、こういうことを楽しむとか。教えてもらえるじゃないですか。聞こえない、喋れない人と付き合うことによって、聞こえない、喋れないことによる不便さ、困る事。だけどこんな風にして生きている、自分達は生活しているという知恵を教えてもらえる。出発はかあちゃんのわがままです。私自身が自分の娘と心地よく生きていて、私自身も心地よくありたいというのが出発だったわけです。

そういった中で、左手の指先だけでマンションの管理人をはじめたという青年とも出会いました。全盲で子育てしている女性とも知り合った。もう、完璧に片付いてい

